

基礎ゼミナールの授業評価について

基礎ゼミナール部会長
都市教養学部理工学系准教授

横田 佳之

はじめに

「基礎ゼミナール」は、
「考える・調べる・発表する」
という作業を通じて、
「課題発見能力・問題解決能力・自己表現能力」
の育成を目的とするゼミナール形式の授業で、1年前期の必修科目です。今年度は、受講生1674名に対して81クラスが開講されました。本稿では、FD委員会と教務委員会・基礎教育部会が平成22年度に実施した「基礎ゼミナールの授業評価アンケート」の結果について、その概要を報告します。

調査対象と回収率

調査対象は、受講学生および授業担当教員で、受講学生1674名中1407名（回収率84.1%）、授業担当教員81名中71名（回収率87.7%）の回答があり、高い回収率となりました。以下、学生・教員による授業評価をそれぞれSE・TEと略記します。

質問項目

質問項目および略称は表1の通りです。問1から問8まではいわゆる「共通事項」で、他の教養科目と同じ設問ですが、問9から問12までは基礎ゼミナールの「個別事項」となっており、基礎ゼミナールの目標である課題発見・問題解決能力（問10）、自己表現能力（問11）の達成度に関する設問を設定しています。また、1クラス24名以内という制約のため、必ずしも第1希望のクラスを受講できない場合があることをふまえ、テーマに対する関心（問9）についての設問を設けていますが、今年度は、新しく自由記述欄に「第1希望のクラスであったか否か」という設問を追加しました。

アンケート結果の分析

(1) 「共通事項」のSE平均値は、他の教養科目と比較しても高水準で、ここ数年の推移をみても、【時間】以外の設問で伸び続けています。トップ3をみると、

(表1)

		質問事項	略称
共通事項	問1	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。	【態度】
	問2	授業の目的を意識しながら学習することができた。	【意識】
	問3	教員の説明はわかりやすかった。	【説明】
	問4	教員は学生の質問・意見に対して適切に対応していた。	【対応】
	問5	授業時間以外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか？	【時間】
	問6	成績評価方法について十分な説明があった。	【成績】
	問7	シラバスに目標として掲げられている知識や能力を獲得できた。	【成果】
	問8	私はこの授業を受講して満足した。	【満足】
個別事項	問9	SE この授業テーマは自分の関心にあっていた。	【主題設定】
		TE この授業で学生がテーマに関心を持つように教えた。	
	問10	問題発見と、その解決に向けた取り組み姿勢の重要性を認識した。	【問題発見】
	問11	ディスカッションやプレゼンテーションなどの自己表現能力を向上させることができた。	【表現能力】
問12	受講生による議論・調査・発表の部分に対し、教員によるテーマの解説部分の時間配分はどうでしたか？	【バランス】	

※回答は5段階：強くそう思う（5）、そう思う（4）、どちらともいえない（3）、そう思わない（2）、全くそう思わない（1）

	平成20年	平成21年	平成22年
【対応】：	3.94	3.98	4.05
【態度】：	3.83	3.87	3.97
【満足】：	3.79	3.86	3.94

と4ポイント前後まで伸びていて、ワースト3でも、

	平成20年	平成21年	平成22年
【時間】：	2.32	2.44	2.41
【成績】：	3.32	3.31	3.48
【成果】：	3.39	3.47	3.56

と、さほど悪くない水準です。これらはそれぞれ

「SE平均値とTE平均値のギャップの少なさ」

のトップ3とワースト3にピタリと一致していて、このあたりが今後の課題といえるでしょう。ちなみに【満足】では、毎年、SE平均値がTE平均値を大幅に上回っています。

(2)「個別事項」のSE平均値の推移は、

	平成20年	平成21年	平成22年
【主題設定】：	3.72	3.78	3.83
【問題発見】：	3.68	3.79	3.84
【表現能力】：	3.53	3.68	3.71

という具合に、やはり高い水準で伸び続けていますし、

【バランス】では、「ちょうどいい」という回答が

	平成20年	平成21年	平成22年
	66.2%	67.8%	71.3%

という推移で、ついに7割を超えました。ただ、SE平均値とTE平均値のギャップが(1)のワースト3なみに大きく、縮まる傾向が見えません。とくに【表現能力】のギャップが大きいです。今後の課題といえるでしょう。

(3)「第1希望のクラスであったか否か」と授業評価アンケートの相関関係について、以下の項目で有意の差が現れました。

	【意識】	【満足】	【主題設定】
第1希望：	4.04	4.22	4.13
それ以外：	3.80	3.86	3.53

ただ、設問の字が小さかったため、半数以上の学生が設問に気がついていない可能性があり、来年度以降は「個別事項」欄に設問を移し、継続して調査を行います。

自由記述欄より

平成21年度までの授業評価を受けて、平成22年度に行った工夫として、

- ①専門的なテーマは避け、身近なテーマを選ぶ
- ②テーマを絞り、授業に余裕をもたせる

③宿題を減らし、作業時間を授業中にとる

④学生の自主的な発言・取り組みを促すなどの例がTEの自由記述欄に書かれています。関係していそうなSEの自由記述を拾ってみましょう。

①に関するSEの自由記述

- ・専門的すぎて興味がないとつらい
- ・ゼミの目的がわからない

②に関するSEの自由記述

- ・調査、議論、発表の時間が少なすぎる
- ・授業計画をきちんとたててほしい

③に関するSEの自由記述

- ・授業外で、学生同士が集まるのは難しい

④に関するSEの自由記述

- ・教員の考えをなぞるための授業ではない
- ・授業が説明ばかりで、プレゼンもなし

肯定的な意見が圧倒的に多いなか、このような厳しい意見は貴重です。上記の工夫とあわせて、心にとどめておくべきだと思います。最後に、SEの自由記述で代表的なものを挙げると、

- ・いろいろな学部の学生と触れあえて楽しい
 - ・教員と学生の距離が近いと感じた
 - ・レポートの書き方やプレゼンの方法を教わったなどで、とくに
 - ・前期の授業でいちばん楽しかった
- という意見が多いのには勇気づけられます。

おわりに

基礎ゼミナールの授業評価結果をみると、学生の満足度も高く、授業の目的もある程度達成されていると思いますが、まだまだ課題もあります。これまでの担当教員の努力を無駄にしないためにも、基礎ゼミナール懇談会などを通じて、さまざまな情報を共有し、新しい意見も取り入れて、基礎ゼミナールのさらなる充実に努めていくべきだと感じます。